

プログラム

◆特別講演 1

10月29日(木) 13:30~14:30 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

睡眠の謎に挑む：基礎神経科学から社会実装研究まで

座長：磯 博康（日本公衆衛生学会理事長）
演者：柳沢 正史（筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構）

◆特別講演 2

10月30日(金) 10:10~11:10 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

Circadian Medicine and Sleep Health

座長：谷川 武（順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座）
野田 愛（順天堂大学 国際教養学部）
演者：Charles A. Czeisler（Division of Sleep Medicine, Harvard Medical School / Brigham and Women's Hospital）

◆学会長講演

10月30日(金) 12:40~13:40 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

公衆衛生学をもう一歩前に一関連諸科学を活用した地域・職域の健康課題へのアプローチ

座長：下光 輝一（東京医科大学名誉教授）
中村 幸志（琉球大学大学院医学研究科 公衆衛生学・疫学講座）
演者：谷川 武（順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座）

◆特別企画講演 1

10月30日(金) 9:00~9:50 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

わが国の死因究明制度の現状と将来展望

座長：山本 秀樹（帝京大学 薬学部 環境衛生学研究室）
演者：福永 龍繁（東京都監察医務院）

◆特別企画講演 2

10月31日(土) 8:30~9:30 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

Digitally Inclusive, Healthy Ageing Communities (DIHAC): A cross-cultural study in Japan, the Republic of Korea, Singapore, Thailand, and beyond.

座長：伊藤 明子（赤坂ファミリークリニック 院長）
演者：Myo Nyein Aung（順天堂大学大学院医学研究科・国際教養学部）

◆教育講演 1

10月29日(木) 10:10~11:00 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

未知との遭遇 未来への言霊 ー東京都医師会は如何にコロナと闘ったかー

座長：鳥居 明（東京都医師会 公衆衛生担当理事）
演者：尾崎 治夫（東京都医師会 会長）

◆教育講演 2

10月29日(木) 11:10~12:00 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

結核の蔓延度をはかり、結核を減らす

座長：石川 信克(結核予防会 結核研究所 名誉所長)

演者：吉山 崇(結核予防会 結核研究所)

◆教育講演 3

10月29日(木) 14:40~15:30 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

睡眠予防医学の基盤となる睡眠計測の実例

—睡眠時無呼吸症候群スクリーニング検査と睡眠負債の可視化を中心に—

座長：和田 裕雄(順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 教授)

演者：中野 博(国立病院機構福岡病院 睡眠センター)

◆教育講演 4

10月29日(木) 15:40~16:30 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

東日本大震災直後の東京電力福島第一、第二発電所所員へのメンタルヘルス支援

—災害時の公衆衛生活動の実際—

座長：大平 哲也(福島県立医科大学疫学講座主任教授)

演者：重村 淳(目白大学 保健医療学部 作業療法学科 教授)

◆特別シンポジウム 1

10月30日(金) 14:10~15:25 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

公衆衛生における睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策の現状と課題

座長：谷川 武(順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座 主任教授)

中山 健夫(京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授)

演者：公衆衛生における睡眠時無呼吸症候群(SAS)対策の現状と課題：特定健診ならびに労働衛生・労災保険二次健康診断等給付への道のり

谷川 武(順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座 主任教授)

SASが脳卒中、心臓病に及ぼす影響に関する国外の知見

中田 光紀(産業医科大学 医学部 公衆衛生学 教授)

SASの健康影響-心血管系に関する国内の知見を中心に-

陳 和夫(日本大学医学部 内科学系睡眠学分野 特任教授)

特定健診の項目採択と SAS

中山 健夫(京都大学 大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康情報学分野 教授)

指定発言：行政の立場から

堀岡 伸彦(厚生労働省 健康・生活衛生局 健康課長)

諸富 伸夫(厚生労働省 労働基準局 安全衛生部 労働衛生課長)

◆特別シンポジウム 2

10月30日(金) 15:40~16:55 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

睡眠面からの健康づくり施策の動向—先進的好事例とその普及—

- 座長：成井 浩司(赤坂おだやかクリニック名誉院長)
鈴木 康裕(国際医療福祉大学学長)
- 演者：睡眠と健康に関する省庁横断的取り組みの重要性
成井 浩司(赤坂おだやかクリニック名誉院長)
厚生労働省における取り組みと横断的取り組みへの展望
堀岡 伸彦(厚生労働省 健康・生活衛生局健康課長)
経済産業省における取り組みと横断的取り組みへの展望
福田 光紀(経済産業省 商務・サービスグループ ヘルスケア産業課長)
- 事例紹介：大東建託株式会社
野村不動産株式会社
- 指定発言：鈴木 康裕

◆シンポジウム 1

10月29日(木) 16:45~18:00 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

能登半島地震後の高齢者支援を時系列で捉える—多職種連携の視点から—

- 座長：表 志津子(金沢大学)
隈丸加奈子(順天堂大学)
- 演者：能登半島地震の救急現場で直面した被災高齢者の実態
平井 忠幸(金沢大学)
能登半島地震後の高齢者施設入所者の避難後死亡率調査
坪倉 正治(福島県立医科大学)
仮設住宅の高齢者の視点からみた中長期的な心身の健康問題
田中 浩二(金沢大学)
能登半島地震後の施設入所高齢者の避難後の帰還調整
上吉原良実(国立健康危機管理研究機構 DMAT 事務局)

◆シンポジウム 2

10月29日(木) 10:10~11:25 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコード B)

公衆衛生学分野におけるデジタル技術の活用—特に人工知能について—

- 座長：内田 満夫(群馬大学数理データ科学教育研究センター)
桑原 恵介(横浜市立大学医学部公衆衛生学)
- 演者：AI を用いた行政データ分析の連携
大川 貴史(群馬大学保健学研究科)
生成 AI を用いた精神保健領域の研究
渡辺 和広(北里大学医学部公衆衛生学)
AI を用いた感染症情報分析に関する研究
山内 武紀(昭和医科大学医学部衛生学)
ローカル環境における生成 AI モデル構築の紹介
清水沙友里(横浜市立大学医学部臨床疫学・臨床薬理学)

◆シンポジウム 3

10月29日(木) 12:50~14:05 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

Well-being 研究の潮流と社会実装の取り組み

座長：大平 哲也(福島県立医科大学)
白井こころ(大阪大学)

演者：Well-being 創生センターにおける研究と社会実装

藤原 武男(東京科学大学)

都市環境におけるウェルビーングリサーチと社会実装

武林 亨(慶應義塾大学)

ISO 国際基準の視点から見る Well-being の社会実装

佐藤 洋(産業技術総合研究所)

万博での取り組みを通じた、健康づくりの観点からみた Well-being の社会実装

菅野 光美(大阪府庁)

◆シンポジウム 4

10月29日(木) 14:20~15:35 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

地域・職域での自然に健康になれる食環境整備推進：産学連携スマートミール認証の活用

座長：武見ゆかり(日本栄養大学(旧女子栄養大学))

梅澤 光政(獨協医科大学医学部)

演者：地域における減塩のための食環境整備の推進

野村 善博(日本高血圧学会 減塩・栄養委員会)

職域の健康経営の一環としての食環境整備の位置づけ

樋口 毅(株式会社ルネサンス)

自然に健康になれる食環境づくりに向けたスマートミール認証の実績と課題

赤松 利恵(お茶の水女子大学)

◆シンポジウム 5

10月29日(木) 17:35~18:50 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

リスクアセスメントデータを地域診断に活かす母子保健 DX の実装と展開

座長：山縣然太郎(国立成育医療研究センター こどもシンクタンク)

大久保祐輔(国立成育医療研究センター 社会医学研究部)

演者：母子保健分野における DX 推進とデータ活用の方向性

植田 彰彦(こども家庭庁成育局母子保健課)

リスクアセスメントシートを活用した地域診断の可能性と課題

帯包エリカ(国立成育医療研究センター 社会医学研究部)

母子保健データの DX 基盤構築と自治体間比較分析の展望

櫻井 陽一(NTT ドコモビジネス株式会社)

自治体におけるリスクアセスメント導入と対象者支援への応用

調整中

◆シンポジウム 6

10月29日(木) 10:10～11:25 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

公衆衛生倫理の展開—同意を巡る研究の倫理と公衆衛生倫理

座長：中澤 栄輔（東京大学）

井上まり子（帝京大学）

演者：感染症対策など公衆衛生政策における同意を巡る倫理的考察

中澤 栄輔（東京大学）

研究倫理指針の改訂と疫学研究の倫理

井上 悠輔（京都大学）

コミュニティの分断と公共的意思決定

井上まり子（帝京大学）

◆シンポジウム 7

10月29日(木) 12:50～14:05 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

地域包括ケアのこれまでとこれから

座長：安田 誠史（高知大学 医学部 公衆衛生学教室）

岸 恵美子（東京医療保健大学 東が丘看護学部）

演者：これまでの総括（仮題）

安田 誠史（高知大学 医学部 公衆衛生学教室）

これからの課題と対策（仮題）

植田 拓也（東京都健康長寿医療センター研究所 東京都介護予防・フレイル予防推進支援センター）

保健事業と介護予防の一体的実施を足掛りとする実践（仮題）

北川 瞳（八尾市保健所 保健企画課 健康まちづくり科学センター）

地域共生社会での重層的支援を足掛りとする実践（仮題）

小池 良実（岡さんのいえ TOMO）

◆シンポジウム 8

10月29日(木) 14:20～15:35 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

医療福祉計画評価におけるロジックモデル活用の展開と課題～国・県・市の実践から～

座長：今村 知明（奈良県立医科大学 公衆衛生学講座）

埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野）

演者：医療計画ロジックモデルと地域医療構想との連携

埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野）

国のがん対策推進基本計画の中間評価

大井久美子（厚生労働省健康・生活衛生局 がん・疾病対策課）

沖縄県における医療計画の進捗評価—地域医療構想との連携も見据えて—

長浜麻紀子（沖縄県 保健医療介護部 医療政策課）

那覇市の在宅医療・介護連携推進事業におけるロジックモデルと指標の設定

高江洲アヤ子（那覇市医師会 那覇市在宅医療・介護連携支援センター ちゅいしーじー那覇）

◆シンポジウム 9

10月29日(木) 15:50~17:05 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

睡眠と休養 2026：最新のデジタルデバイスを活用した睡眠の可視化

- 座長：兼板 佳孝（日本大学医学部社会医学系公衆衛生学）
和田 裕雄（順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学）
演者：疫学研究での客観評価による睡眠の実態：睡眠学の常識の見直しと個人差・地域差
森田 恵美（筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構）
子ども睡眠健診の実現に向けて
岸 哲史（東京大学大学院教育学研究科身体教育学コース）
睡眠負債の客観的測定手法を用いた中高生の疫学研究
植田 結人（順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学）
労働者の睡眠休養感と客観的覚醒機能との関連
大塚雄一郎（日本大学医学部社会医学系公衆衛生学分野）

◆シンポジウム 10

10月29日(木) 17:20~18:35 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

医療機関のサイバーセキュリティの脆弱さと地域医療連携の課題に対する支援

- 座長：竹内 公一（千葉県松戸保健所（松戸健康福祉センター））
佐藤 真一（我孫子聖仁会病院）
演者：サイバーセキュリティ対策の必要性和情報連携・遠隔医療の進展による地域医療
竹内 公一（千葉県松戸保健所（松戸健康福祉センター））
地域医師会が進める医療機関におけるサイバーセキュリティ対策研修会の実施と方向性
岡崎 光洋（秋田大学医学部附属病院 医療 DX センター 遠隔医療推進部門）

◆シンポジウム 11

10月29日(木) 10:10~11:25 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

関連諸科学の連携に基づく共創ウェルビーイング実現方法：当事者主体エンパワメント

- 座長：安梅 勅江（筑波大学）
渡辺多恵子（淑徳大学）
演者：行動科学アプローチと共創ウェルビーイング
松本 宗賢（令和健康科学大学）
保健福祉学アプローチと共創ウェルビーイング
川崎百合子（飛島村すこやかセンター）
発達科学アプローチと共創ウェルビーイング
白山 美鈴（路交館北丘聖愛園）
司法福祉学と共創ウェルビーイング
酒寄 学（社会福祉法人芳香会）

◆シンポジウム 12

10月29日(木) 12:50~14:05 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

健康危機管理/感染症危機管理における人材育成の新たな潮流

座長：砂川 富正(国立健康危機管理研究機構 人材育成局研究企画部/国立感染症研究所 応用疫学研究センター)

演者：国立保健医療科学院における人材育成

富尾 淳(国立保健医療科学院 防災・公衆衛生レジリエンス研究センター)

サーベイランスオフィサープログラム(SCOP)における人材育成

神垣 太郎(国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所 感染症サーベイランス研究部)

感染症危機管理リーダーシップ研修(IDCL)における人材育成

佐藤 瞳(国立健康危機管理研究機構 危機管理・運営局 企画調整部 政策研究課 研究開発連携室)

実地疫学専門家養成コース(FETP)における人材育成

土橋 西紀(国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所 応用疫学研究センター)

◆シンポジウム 13

10月29日(木) 14:20~15:35 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

共生社会に向けた医療保険制度の課題と将来像

座長：高橋 香(国際移住機関(IOM))

演者：外国人住民の増加と人口構造の変化が医療保険制度に与える影響

林 玲子(国立社会保障・人口問題研究所)

外国人患者対応の現状と課題—医療機関における取組から—

向井 陽太(佐久総合病院/佐久医療センター)

中長期在留者の健康保険・医療アクセスの実態を把握するには何が必要か

東 尚弘(東京大学大学院医学系研究科公衆衛生学)

外国人住民の増加に対応した医療保険制度の政策課題と将来展望

島崎 謙治(国際医療福祉大学大学院)

◆シンポジウム 14

10月29日(木) 10:10~11:25 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

多様なケアする家族の声を聴く-当事者経験から問い直す家族支援の実践・研究・政策

座長：涌井 智子(東京都健康長寿医療センター研究所)

松澤 明美(北海道大学)

演者：父の在宅看取りを経験して見えてきた「暮らし」を支える家族の役割

松本 佳子(医療経済研究機構)

ケアとともに生きる家族としての経験を振り返って：障害のある母との歩み

高橋 唯(ヤングケアラー経験者)

認知症による長期行方不明事案における、残された家族が抱える様々な苦悩と葛藤

江東 愛子(NPO 法人いしだたみ・認知症行方不明者家族等の支えあいの会)

◆シンポジウム 15

10月29日(木) 12:50~14:05 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

人々を中心に多分野をつなぐ保健師の力—One Team で拓く協働・連携の未来—

座長：大森 純子（聖路加国際大学大学院）
五十嵐久美子（国立保健医療科学院）

演者：産業保健と地域保健の協働・連携

渡井いづみ（浜松医科大学）

母子保健と家庭福祉の協働・連携

奈喜良桂子（千代田区保健福祉部）

大学と実践現場の協働・連携

遠藤 雅幸（川崎市立看護大学）

多職種・住民との協働・連携

木村 絵美（女川町役場健康福祉課）

◆シンポジウム 16

10月29日(木) 14:20~15:35 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

5歳児健診がつなぐ生涯のウェルビーイング～こどもまんなか社会を公衆衛生から描く～

座長：小倉加恵子（鳥取県福祉保健部／子ども家庭部（兼）倉吉保健所）

越田 理恵（金沢市福祉健康局（兼）金沢市保健所）

演者：5歳児健診を活用した「こどもまんなか社会」の実現に向けた啓発の推進

小倉加恵子（鳥取県福祉保健部／子ども家庭部（兼）倉吉保健所）

健康の社会決定因子と5歳児健診の可能性

藤原 武男（東京科学大学医学部公衆衛生分野）

母子保健から見た5歳児健診と成育期支援の連続性

大木 幸子（杏林大学保健学部看護学科地域看護学研究室）

5歳児健診の学校保健への接続と地域での支援体制

古池 雄治（茨城大学教育学部 教育保健教室）

◆シンポジウム 17

10月29日(木) 15:50~17:05 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

子ども・子育て・家族支援の新たな展開

座長：加藤 則子（十文字学園女子大学）

小橋 元（獨協医科大学）

演者：子ども虐待受刑者の調査：虐待防止に向けて

黒田 公美（東京科学大学）

子どもの居場所とオンラインをハブとしたヤングケアラーへの包括的支援

門田 行史（自治医科大学）

子ども虐待を予防する孤立させない地域づくり

阿部 美子（獨協医科大学）

◆シンポジウム 18

10月29日(木) 10:10~11:25 第6会場(京王プラザホテル 4F 副)

若年層を対象とした地域精神保健の社会実装：実装科学からのアプローチと産学官連携

座長：根本 隆洋（東邦大学医学部 精神神経医学講座／社会実装精神医学講座）

今村 晴彦（長野県立大学大学院 健康栄養科学研究科）

演者：地域精神保健の機能強化に向けた若年者メンタルヘルス支援窓口 SODA の実装

内野 敬（東邦大学医学部 社会実装精神医学講座）

若年者相談支援窓口の社会実装に向けた阻害・促進要因の把握：実装科学の枠組みから

今村 晴彦（長野県立大学大学院 健康栄養科学研究科）

メンタルヘルス支援の普及に向けた産学官連携の挑戦：企業の視点から

木野ゆりか（日本生命保険相互会社 ヘルスケア事業部）

◆シンポジウム 19

10月29日(木) 12:50~14:05 第6会場(京王プラザホテル 4F 副)

高齢者の被災者ジャーニーにおける課題と対策—急性期から慢性期の健康リスク—

座長：齋藤 貴之（群馬大学）

浜崎 景（群馬大学）

演者：災害フェーズごとにみる高齢者の健康課題

坪倉 正治（福島県立医科大学）

高齢者における急性期から生活支援に至る課題

鈴木 伸明（群馬県社会福祉協議会 災害福祉支援センター）

高齢者における災害後の二次的健康影響とそのリスク要因の検討

趙 天辰（福島県立医科大学）

高齢者の災害関連死を抑制するための支援 —看護の視点から—

内田 陽子（群馬大学）

◆シンポジウム 20

10月29日(木) 14:20~15:35 第6会場(京王プラザホテル 4F 副)

JSPH、JSTB 学会共同企画シンポジウム：新技術を生かした途上国の結核対策

座長：前田 秀雄（公益財団法人結核予防会）

長嶺 路子（東京都板橋区保健所）

演者：ザンビア農村における結核患者発見強化の取り組み

高山 義浩（沖縄県立中部病院感染症内科・地域ケア科）

ネパールにおける結核スクリーニングと積極的患者発見

永田 由佳（公益財団法人結核予防会国際部）

カンボジアにおける第3回全国結核有病率調査とその意義

小野崎郁史（公益財団法人結核予防会国際部）

◆シンポジウム 21

10月29日(木) 15:50~17:05 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

健康危機管理を担う人材育成の未来 現場・行政・教育をつなぐ人材育成モデルの構築

座長：赤星 昂己（国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT 事務局）

演者：災害等危機管理専門家養成コース（CMTP）の設置と未来

近藤 久禎（国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT 事務局）

CMTP 研修生から見た災害医療の未来

上村 浩貴（国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT 事務局）

FETP の歴史から見る災害医療人材育成の未来

砂川 富正（国立感染症研究所応用疫学研究センター）

CMTP 制度設計について

中務 智彰（厚生労働省医政局地域医療計画課）

◆シンポジウム 22

10月29日(木) 17:20~18:35 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

防災×保健の協働による防災コミュニケーションの実践

座長：寶澤 篤(東北大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野(日本公衆衛生学会 災害・緊急時公衆衛生活動委員会 委員長))

大森 純子(聖路加国際大学大学院公衆衛生看護学(日本公衆衛生学会 災害・緊急時公衆衛生活動委員会 委員))

演者：防災×保健の協働：保健師が事前防災に関わる意義

岩本 萌(東北大学大学院医学系研究科)

厚生労働省における防災部門等との連携について

後藤 友美(厚生労働省健康・生活衛生局健康課保健指導室)

静岡県富士市を対象とした『お母さんお父さん教室』での事前防災の行動変容に向けた取り組み

藤本 慎也(東北大学災害科学国際研究所)

防災×保健の協働を促進させるためのプラットフォームの構築

大類 真嗣(東北大学災害科学国際研究所(日本公衆衛生学会 災害・緊急時公衆衛生活動委員会 委員))

◆シンポジウム 23

10月29日(木) 10:10~11:25 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

疫学的視点から歯科口腔疾患のニーズを再考する

座長：田口 円裕(東京歯科大学 水道橋病院・歯科医療政策学)

長 優子(江戸川区健康部健康サービス課 中央健康サポートセンター)

演者：近年の歯科口腔疾患のニーズの考え方：McKeown 論と GBD study

相田 潤(東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 歯科公衆衛生学分野)

医療計画と公的データの実際

種村 崇(静岡県 健康福祉部健康局 健康増進課 地域支援班)

NDB オープンデータなどを活用した需要とニーズの見方について

石丸 美穂(東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 歯科公衆衛生学分野)

◆シンポジウム 24

10月29日(木) 12:55~14:10 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

食事調査における“定量的評価”の重要性

座長：佐々木 敏(東京大学)

中村美詠子(医薬基盤・健康・栄養研究所)

演者：食事の定量的評価と食事摂取基準

朝倉 敬子(東邦大学)

陰膳法を用いた食事調査による定量的評価とその実際

龍田 希(国立環境研究所)

写真併用3日間食事記録調査を用いたコホート研究からの知見

大塚 礼(国立長寿医療研究センター)

食事記録調査と生体指標のコラボレーション

松本 麻衣(医薬基盤・健康・栄養研究所)

◆シンポジウム 25

10月29日(木) 14:25~15:40 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

信頼できる医療情報をどう探し、どう届けるかー当事者・医療者・公的情報発信の役割ー

座長：井花 庸子(国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター)

堀抜 文香(国立がん研究センター)

演者：「正しい医療情報はなぜ届かないのか」ー患者・家族の視点から考える医療情報環境ー

大澤 裕子(NPO 法人親子に寄り添う連携支援プロジェクト)

SNS 患者コミュニティは医療情報環境にどのような役割を持つかー1 型糖尿病コミュニティの実践からー

能勢 謙介(iVOX 運営)

診察室の外へ医療情報を届けるー小児医療アプリ「教えて！ドクター」の実践ー

坂本 昌彦(JA 長野厚生連 佐久総合病院佐久医療センター 小児科)

信頼できる医療情報をどう実現するかーナショナルセンターにおける疾患横断的医療情報発信と質保証ー

藤岡 泉(国立成育医療研究センター)

◆シンポジウム 26

10月29日(木) 15:55~17:10 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

相互に影響し合う事象がつくる世界の未来を予測するシステムダイナミクスモデルの活用

座長：藤原 武男(東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 公衆衛生学分野)

富永 京子(立命館大学 産業社会学部現代社会学科)

演者：なぜ System Dynamics Model を使うのか？

菖蒲川由郷(東京科学大学 未来社会創成研究院)

疫学解析、System Dynamics Model、Agent Based Model の違い

那波 伸敏(東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 地球環境医学分野)

System Dynamics Model を活用した研究事例

西 信雄(聖路加国際大学 大学院公衆衛生学研究科)

環境保健およびプラネタリーウェルビーイングにおける System Dynamics Model の実例

西村 久明(東京科学大学 大学院医歯学総合研究科 公衆衛生学分野)

◆シンポジウム 27

10月29日(木) 10:10~11:25 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

感染症に強い地域づくりー人材の確保・育成と地域ネットワークの構築ー

座長：中島 一敏(大東文化大学 スポーツ・健康科学部 健康科学科)

金成由美子(福島県県南保健所)

演者：地域ネットワーク構築を担う人材育成とその活用の検討

黒須 一見(国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所)

山梨県感染症対策センターにおけるインテリジェンス人材の確保と活用

大沼 恵(山梨県富士・東部保健福祉事務所(兼務：山梨県福祉保健部感染症対策センター))

Shiga HAI-Net の感染制御リーダーの育成とリーダー間ネットワークの構築

淡野 睦(滋賀県健康医療福祉健康危機管理課)

湖北地域における人材育成とネットワーク構築

有村 剛(湖北地域介護サービス事業者協議会)

◆シンポジウム 28

10月29日(木) 14:25～15:40 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

地域保健のための薬剤師の役割～緊急避妊薬の提供や学校保健を通じて～

座長：庄野あい子（昭和薬科大学）
阿部 真也（株式会社ツルハ）
演者：地域包括ケアシステム構築のための薬剤師の役割（仮）
狭間 研至（ファルメディコ株式会社）
薬機法改正による緊急避妊薬の調剤・販売（仮）
城戸真由美（調剤薬局ツルハドラッグ八勝通店）
地域で取り組む学校薬剤師（仮）
加藤 淳（おいのもり調剤薬局）
東京都における薬剤師に関わる政策の現状（仮）
調整中

◆シンポジウム 29

10月29日(木) 15:55～17:10 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

精神障害者が“地域で暮らし続ける”ために 経験専門家であるピアサポーターの意義

座長：柳 尚夫（岐阜県精神保健福祉センター）
稲葉 静代（岐阜県可茂保健所）
演者：精神保健分野における地域移行・地域定着の意義
海老名英治（厚生労働省精神・障害保健課）
ピアサポーターと共に築く未来
相川 章子（埼玉県立大学）
ピアサポートグループの運営を行政に活かして
杉山 更紗（大津市保健所）

◆シンポジウム 30

10月29日(木) 10:10～11:25 第10会場(京王プラザホテル 43F スターライト)

母子保健 DX 時代の乳幼児健診のあり方-精度管理と事後フォローアップ-

座長：山縣然太郎（国立成育医療研究センター）
村嶋 幸代（東京大学名誉教授）
演者：新たな乳幼児健診のあり方
田中 彰子（こども家庭庁成育局母子保健課）
レセプトを用いた精度管理
原間 大輔（山梨大学医学部小児科学講座）
ICT を活用した乳幼児健診
田口 敦子（慶應義塾大学看護医療学部地域看護学分野）
5歳児健診の現状と課題
永光信一郎（福岡大学医学部小児科学講座）

◆シンポジウム 31

10月29日(木) 13:10~14:25 第10会場(京王プラザホテル 43F スターライト)

多死社会の公衆衛生上の課題と葬儀社ガイドライン周知の取組み

- 座長：武藤 剛（東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学）
高杉 友（近畿大学理工学部 社会環境工学科）
- 演者：御遺体を取扱う葬儀社に期待される感染対策の教育と実践（仮）
黒須 一見（国立健康危機管理研究機構（JIHS）国立感染症研究所）
葬儀社の室内環境衛生モニタリング結果と環境改善にむけて（仮）
鈴木 規道（千葉大学予防医学センター）
多死社会における遺族支援と葬儀社の役割：デス・リテラシーを高める（仮）
河口謙二郎（東京女子医科大学医学部衛生学公衆衛生学講座）
法医解剖からみる多死社会の実際と死因統計への寄与の可能性（仮）
猪口 剛（千葉大学大学院医学研究院法医学）

◆シンポジウム 32

10月29日(木) 14:40~15:55 第10会場(京王プラザホテル 43F スターライト)

郵送検査時代に考える！保健所・自治体のエイズ／性感染症対策における役割

- 座長：白井 千香（枚方市保健所）
剣 陽子（熊本県阿蘇保健所／健康福祉部健康危機管理課）
- 演者：改定予防指針から考える 自治体・保健所への期待
白阪 琢磨（国立病院機構大阪医療センター HIV/AIDS 先端医療開発センター／エイズ予防財団）
「届きにくい」層へいかにアプローチするか：MSM 向け郵送検査からみた、協働型アウトリーチの公衆衛生施策の実装
岩橋 恒太（特定非営利活動法人 akta）
地方における HIV 郵送検査モデルの実証研究から見えてきた課題
鄭 瑞雄（都立駒込病院感染症科）
自治体における HIV／性感染症検査の全体像と郵送検査の実際
兒玉とも江（岡山市保健所感染症対策課）

◆シンポジウム 33

10月29日(木) 16:10~17:25 第10会場(京王プラザホテル 43F スターライト)

「自然に健康になれる環境づくり」ビジネスの最前線—エビデンスから実装まで—

- 座長：近藤 尚己（京都大学大学院医学研究科）
野村 恭子（秋田大学大学院医学系研究科）
- 演者：特定保健指導の場を活用した社会的処方デジタルプラットフォーム
古市 恭久（株式会社日立製作所）
保険販売員による社会的処方サービスの研究について
甲斐 裕子（公益財団法人明治安田厚生事業団体力医学研究所）
行動科学の手法を応用したエンタメ型健康づくりサービス「健診戦」
松本 友里（株式会社博報堂）
「健診戦」の効果に繰り返し参加は必要か：参加頻度による効果の違いの検討—縦断研究—
永田 英恵（京都大学大学院医学研究科）

◆シンポジウム 34

10月30日(金) 12:40~13:55 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

地域包括ケアを展開するための健診・検診事業の位置づけと、地域医療と公衆衛生の協働

- 座長：宇田 英典（地域医療振興協会）
川畑 輝子（地域医療振興協会 地域医療研究所）
演者：健康寿命の延伸に向けた地域医療と公衆衛生の協働と健診・検診の新たな役割
尾島 俊之（浜松医科大学 医学部 医学科 健康社会医学講座）
地域における健診事業の現状と今後の方向性
宮原 広典（鹿児島厚生連病院）
へき地を支えるユニバーサルサービスとしての健診・予防医療
杉田 義博（地域医療振興協会 日光市民病院）
健診を入り口とした地域貢献—医療施設における特定保健指導推進の取組—
川畑 輝子（地域医療振興協会 地域医療研究所）

◆シンポジウム 35

10月30日(金) 14:10~15:25 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

健康危機管理の基軸である市町村と保健所で創る新たな公衆衛生

- 座長：宇田 英典（公益社団法人 地域医療振興協会）
河西あかね（一般財団法人 日本公衆衛生協会 健康危機管理支援部）
演者：災害時の公衆衛生対策における保健所の役割
藤内 修二（大分県 東部保健所）
海老名市における健康危機保健活動
澁谷 晶子（神奈川県 海老名市保健福祉部健康推進課）
調布市における健康危機管理の体制づくり ～危機管理監の立場から～
有松 勝行（東京都 調布市総務部総合防災安全課）

◆シンポジウム 36

10月30日(金) 8:30~9:45 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

健康危機対応の人材育成・備えの新展開：実践力とオールハザード共通基盤

- 座長：赤星 昂己（国立健康危機管理研究機構 危機管理・運営局 DMAT 事務局）
今中 雄一（京都大学大学院医学研究科 ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理システム学分野／社会健康医学系専攻 医療経済学分野）
演者：災害等危機管理専門家養成コース（CMTP）の新たな展開
赤星 昂己（国立健康危機管理研究機構 危機管理・運営局 DMAT 事務局）
Field Epidemiology Training Program Japan（FETP-J）の新たな展開
島田 智恵（国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所）
内閣府（防災）または「防災庁」による避難支援力強化の展開
水野 忠幸（内閣府）
健康危機管理人材育成の履修証明プログラムと院生向けプログラムの新たな展開
今中 雄一（京都大学大学院医学研究科 ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理システム学分野／社会健康医学系専攻 医療経済学分野）

◆シンポジウム 37

10月30日(金) 10:00~11:15 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

グローバル社会における感染症疫学のアップデート

座長：白井 千香(枚方市保健所)

杉下 由行(東京都保健医療局)

演者：グローバル社会における麻疹・風疹対策—排除維持を支える国内の疫学・検査・行政連携

砂川 富正(JIHS 感染症応用疫学研究センター)

梅毒の世界的流行とトレポネーマの分子疫学

川畑 拓也(大阪健康安全基盤研究所)

分子疫学調査を踏まえた外国生まれ結核患者の実地疫学調査について

藤山 理世(神戸市保健所)

指定発言

座間 智子(結核予防会結核研究所)

◆シンポジウム 38

10月30日(金) 12:40~13:55 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

自治体における高齢者を対象とした呼吸器感染症予防ワクチン接種率向上の意義と課題

座長：角野 文彦(藍野大学)

福島 若葉(大阪公立大学大学院)

演者：高齢者における呼吸器感染症予防ワクチン接種の重要性 — 肺炎球菌ワクチンを中心に —

山本 寛(東京都健康長寿医療センター)

自治体として接種率を向上することの意義と医療上のインパクト — 高齢者における肺炎球菌・インフルエンザ・COVID 19 ワクチン接種率上昇が入院・医療費に与える影響 —

福田 治久(九州大学大学院)

予防接種制度からみた自治体施策 — 接種率を高めるための方法と課題(予防接種法上の定期接種B類疾病の論点を含む) —

坂元 昇(川崎市立看護大学大学院)

◆シンポジウム 39

10月30日(金) 14:10~15:25 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

地域医療構想とロジックモデル 領域別の検討から医療提供体制への提言

座長：山名 隼人(自治医科大学)

小林 大介(滋賀医科大学)

演者：高度慢性期の視点から

猪飼 宏(京都府立医科大学)

ロジックモデルの導入の実行可能性は？ 高齢者救急の視点からの検討

清水沙友里(横浜市立大学)

介護の視点から

渡邊多永子(筑波大学)

急性期医療 DPC データと臨床指標の活用

国澤 進(京都大学)

◆シンポジウム 40

10月30日(金) 8:30~9:45 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

食・地域・環境からみるプラネタリーヘルス

座長：依田 健志(川崎医科大学 公衆衛生学)

演者：プラネタリーヘルスを地域から捉え直す：国際保健への人類学的な示唆

Gergely Mohacsi(大阪大学大学院 人間科学研究科)

地域の食を通じた健康増進—フィールド栄養学の観点から

木村 友美(津田塾大学 学芸学部 多文化・国際協力学科)

スリランカにおける気候変動と住民生活環境からみる人間の健康

後藤 健介(大阪教育大学 健康安全教育系)

◆シンポジウム 41

10月30日(金) 10:00~11:15 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

災害対応の基本は生活支援：「福祉」の重要性から

座長：松本 良二(千葉健生病院、元保健所長)

石田久美子(茨城県竜ヶ崎保健所)

演者：「災害関連死ゼロ」に向けて：板橋区と8県13自治体による「広域避難」体制の構築

遠藤 宏(東京都板橋区危機管理部部長)

避難所における災害時要配慮者の尊厳確保：国際比較から見る専門的ケア枠組みの必要性

北川 慶子(佐賀大学名誉教授/東北大学災害科学国際研究所特任教授/避難所・避難生活学会理事)

避難生活を支える災害時の福祉支援活動

鈴木 伸明(群馬県社会福祉協議会 災害福祉支援センター所長/群馬県災害福祉支援ネットワーク事務局/ぐんまDWAT事務局)

2025年災害法制改正と防災庁設置から考える被災者支援の変化

菅野 拓(大阪公立大学大学院文学研究科人間行動学専攻地理学教室准教授)

◆シンポジウム 42

10月30日(金) 12:40~13:55 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

医療の重大な危機、これをどう乗り越えていくのか

座長：松本 良二(千葉健生病院、元保健所長)

石田久美子(茨城県竜ヶ崎保健所)

演者：人口急変動時代の医療のあり方を考える～医師会の立場から

松岡かおり(日本医師会常任理事/医療法人社団睦会いけだ病院院長)

患者・医療従事者・社会が「三方よし」となる医療制度改革の方向性

松江 英夫(社会構想大学院大学社会構想研究科教授)

医療と病院の再編を前に進める—データと合意形成でつくる持続可能性—

吉村 健佑(千葉大学医学部附属病院特任教授/次世代医療構想センター長)

医療と介護の連携が地域社会における医療を持続可能とする解決策

古元 重和(北海道大学大学院医学研究院社会医学分野医療政策評価学教授/前厚生労働省老健局老人保健課長)

◆シンポジウム 43

10月30日(金) 14:10~15:25 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

ブロック訓練に学ぶ保健医療福祉調整本部の多様性と連携

- 座長：西田 敏秀（宮崎県延岡保健所）
池田 和功（和歌山県新宮保健所）
演者：栃木県における保健医療福祉調整本部の体制整備 ～保健医療福祉活動訓練を踏まえて～
早川 貴裕（栃木県安足健康福祉センター）
山口県における保健医療福祉調整本部の体制整備 ～中国ブロック DMAT 実働訓練での取り組み～
古賀 聖典（山口県立総合医療センター）
DMAT からみた行政本部体制との連携
千島佳也子（国立健康危機管理研究機構危機管理運営局 DMAT 事務局）

◆シンポジウム 44

10月30日(金) 15:40~16:55 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

平常時の働きやすさと災害時の柔軟さを両立する保健所

- 座長：宮園 将哉（大阪府岸和田保健所）
原田 昌範（山口県防府保健所／山口県立総合医療センター）
演者：山口県防府保健所—DX化された保健所の運営—
市村 尚之（山口県柳井環境保健所／山口県立総合医療センター）
西宮市保健所一次のパンデミックに備えた執務室づくり—
福田 典子（西宮市保健所）
平常時と災害時をつなぐ保健所執務環境のアイデア
小林 健治（摂南大学理工学部建築学科）
災害時の保健所執務室に求められる機能—日常からつなぐ—
池内 淳子（摂南大学理工学部建築学科）

◆シンポジウム 45

10月30日(金) 17:10~18:25 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

健康危機管理研究の最前線

- 座長：今中 雄一（京都大学大学院医学研究科 ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理システム学分野／社会健康医学系専攻 医療経済学分野）
坪倉 正治（福島県立医科大学 放射線健康管理学講座）
演者：福島県の経験に学ぶ健康危機管理研究の最前線
坪倉 正治（福島県立医科大学 放射線健康管理学講座）
災害関連死研究の最前線
坪井 基浩（東北大学災害科学国際研究所災害医療国際協力学分野）
災害に備える BCP（事業継続計画）研究
高橋 礼子（愛知医科大学災害医療研究センター）
サイレント・パンデミック（AMR）の経済評価
中尾 裕貴（京都大学大学院医学研究科 ヘルスセキュリティセンター 健康危機管理システム学分野）

◆シンポジウム 46

10月30日(金) 8:30~9:45 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

公衆衛生活動は協働から共創の時代へ ～平均寿命が延伸した理由は対話?～

- 座長：前川 明宏（岩手県健康国保課）
岩室 紳也（ヘルスプロモーション推進センター）
演者：平時の対話環境が災害時の支え合いに、地域でつなぎ続けてきた“はまかた運動”
佐々木亮平（岩手医科大学教養教育センター）
人と人とのつながりと、対話環境の醸成を通じた、健康な地域づくり
小澤 沙希（岩手県陸前高田市福祉部）
健康づくりは市民との協働から共創へ、地域のつながりで男性の市民活動活性化
森林友佳子（千葉県浦安市）

◆シンポジウム 47

10月30日(金) 12:40~13:55 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

効果的で継続的な住民組織活動支援を考える

- 座長：村山 洋史（東京都健康長寿医療センター研究所社会参加とヘルシーエイジング研究チーム）
田口 敦子（慶應義塾大学看護医療学部）
演者：これまでの住民組織活動研究から見えてきたこと
村山 洋史（東京都健康長寿医療センター研究所社会参加とヘルシーエイジング研究チーム）
横浜市保健活動推進員活動の支援の実態と課題
久我 咲子（横浜市健康福祉局健康推進部健康推進課）
三条市における健幸づくり推進員活動について
味田さゆり（三条市福祉保健部健康づくり課）
暮らしに幸せを感じるまち HAPPYTOWN はとやまの挑戦
齋藤 芸路（鳩山町長寿福祉課地域包括支援センター）

◆シンポジウム 48

10月30日(金) 14:10~15:25 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

地域に根ざした自殺対策の新展開 ―行政実践・全国データ・当事者参画から考える

- 座長：佐々木那津（東京大学大学院医学系研究科 精神保健学分野）
竹島 正（大正大学地域構想研究所 全国精神保健福祉連絡協議会）
演者：行政現場からみた自殺対策の実装と地域支援の実際
中村 征人（愛知県がんセンター地域医療連携・相談支援センター室長補佐）
全国精神保健福祉センター調査からみた地域自殺対策の実態と課題
島田 達洋（栃木県保健福祉部 精神保健福祉センター）
自殺研究における歴史アーカイブズと当事者参画
後藤 基行（立命館大学大学院 先端総合学術研究科）
自殺対策の次の10年を支える科学基盤―公衆衛生学・データ・政策の再接続―
野村 恭子（秋田大学医学部衛生学公衆衛生学講座）

◆シンポジウム 49

10月30日(金) 15:40~16:55 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

2040年を待たずに進行中の常勤保健師ゼロ・急減の実態とその影響

座長：吉岡 京子（東京大学大学院医学系研究科地域看護学・公衆衛生看護学分野）

塩見 美抄（京都大学大学院医学研究科人間健康科学系専攻）

演者：駐在保健師の歴史から学ぶ保健師ゼロ時代への示唆

木村 哲也（国立ハンセン病資料館事業部事業課）

小規模自治体だからこそ発揮できる強みと保健師への期待：事務職課長の視点から

小川 亮一（鋸南町役場保健福祉課）

保健師ゼロ自治体への派遣実践：現場の課題と対応の実例

市川 智美（福島県庁障がい福祉課）

保健師ゼロ・急減が健康指標に与える影響：小規模市町村を対象とした地域相関分析

兒玉 慎平（鹿児島大学医学部保健学科 地域包括看護学講座）

◆シンポジウム 50

10月30日(金) 17:10~18:25 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

がん登録等の推進に関する法律改正でどう変わる？がん登録とがん対策

座長：大木いずみ（埼玉県立大学/日本がん登録協議会）

堀 芽久美（国立がん研究センターがん対策研究所がん登録センター利活用推進室）

演者：法改正とデータ連結時代におけるがん登録データの利活用と実装科学：エビデンスから実装へ

島津 太一（国立がん研究センターがん対策研究所行動科学研究部）

全国がん登録から導きだされた子宮頸がん高罹患地域の同定と予防啓発の社会実装

片山佳代子（群馬大学大学院情報学研究科/日本がん登録協議会）

市町村の支援を通してがん登録情報の利用を促進する：宮城モデルのご紹介

金村 政輝（宮城県立がんセンター研究所/日本がん登録協議会）

がん登録データ利活用の今とこれからーデータ連結時代に向けた展望ー

堀 芽久美（国立がん研究センターがん対策研究所がん登録センター利活用推進室）

◆シンポジウム 51

10月30日(金) 8:30~9:45 第6会場(京王プラザホテル 4F 扇)

大規模データで探る健康障害と関連要因：女性の健康課題に学ぶ研究立案からデータ解析

座長：荻田 香苗（杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室）

祖父江友孝（内閣府食品安全委員会）

演者：妊娠女性の健康課題：大気環境の影響を調べる疫学研究

道川 武紘（東邦大学医学部社会医学講座衛生学分野）

妊娠女性と乳幼児の健康課題：環境中化学物質の影響を調べる疫学研究

辻 真弓（産業医科大学医学部衛生学講座）

幼児期から老年期における失明の原因となる目の病気：近視・白内障に関する疫学研究

吉田 正雄（杏林大学医学部衛生学公衆衛生学教室）

既存データから見える不妊・更年期と女性の就労形態

錦谷まりこ（九州大学データ駆動イノベーション推進本部健康医療 DX 推進部門）

◆シンポジウム 52

10月30日(金) 10:00~11:15 第6会場(京王プラザホテル 4F 副)

エコチル調査の現状と今後：思春期以降の調査が解き明かす環境と健康の長期影響

座長：野見山哲生（信州大学・エコチル調査信州サブユニットセンター）

山崎 新（国立環境研究所・エコチル調査コアセンター）

演者：エコチル調査のこれまでと現在：成果と到達点

野見山哲生（信州大学）

参加者継続を支える取り組み：各ユニットセンターの実践と課題

伊藤 由起（名古屋市立大学・エコチル調査愛知ユニットセンター）

思春期以降の追跡の意義：環境と健康の長期影響解明の展望

辻 真弓（産業医科大学・エコチル調査産業医科大学サブユニットセンター）

エコチル調査が示す精密公衆衛生の可能性：大規模ゲノム解析から見える子どもの健康と発達

熊坂 夏彦（国立成育医療研究センター・東京大学）

◆シンポジウム 53

10月30日(金) 12:40~13:55 第6会場(京王プラザホテル 4F 副)

学校を基盤とした新たな研究基盤 — コンソーシアム構築に向けて

座長：甲田 勝康（関西医科大学 衛生・公衆衛生学講座）

森崎 菜穂（国立成育医療研究センター 社会医学研究部）

演者：学校を基盤とした研究の課題とコンソーシアムの必要性と今後の展望

石塚 一枝（国立成育医療研究センター 女性の健康総合センター ライフコース疫学研究室）

ヘルスプロモートिंगスクールの取り組みからみた学校保健研究の可能性

喜屋武 享（琉球大学医学部 保健学科 臨床心理・学校保健分野）

学校現場における体力データの利活用の可能性

城所 哲宏（日本体育大学 准教授）

子どもの骨密度と生活習慣

山北 満哉（山梨県立大学 看護学部 看護関連科学領域）

◆シンポジウム 54

10月30日(金) 15:40~16:55 第6会場(京王プラザホテル 4F 副)

職域における特定健康診査に尿ナトカリ比測定を実装する — 厚労省エビデンス構築事業

座長：三浦 克之（滋賀医科大学）

寶澤 篤（東北大学）

演者：事業概要と職域健診における尿ナトカリ比測定導入の課題およびその対応

小暮 真奈（東北大学）

職域健診を活用した尿ナトカリ比改善のための簡易保健指導（保健指導チームを代表して）

由田 克士（大阪公立大学）

職域における尿ナトカリ比低減のための食環境整備の実装戦略

坂口 景子（淑徳大学）

エビデンス構築事業における介入効果の評価（データ解析 WG を代表して）

久松 隆史（岡山大学）

◆シンポジウム 55

10月30日(金) 17:10~18:25 第6会場(京王プラザホテル 4F 扇)

政治・政策と現場をつないで進めるタバコ対策

座長：田淵 貴大(東北大学)

大和 浩(産業医科大学)

演者：みなさんのタバコ対策へのニーズを踏まえて我々はどうすればいいのか

齋藤 順子(帝京大学)

格差問題とタバコ対策、根拠に基づく政策立案：日本にタバコ議連があるという現実を踏まえてどうすればよいのか？

佐藤 豪竜(慶應義塾大学)

健康増進法のさらなる改正に向けて：保健医療科学院での取り組みの紹介も

牛山 明(国立保健医療科学院)

国会議員がタバコ対策を進めるための協働とは？

梅村さとし(衆議院)

◆シンポジウム 56

10月30日(金) 8:30~9:45 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

周産期メンタルヘルス：精神疾患のある人の妊娠から子育ての支援

座長：蔭山 正子(大阪大学大学院医学系研究科公衆衛生看護学)

横山 恵子(横浜創英大学看護学部)

演者：周産期メンタルヘルスにおける保健センター保健師と精神科の協働

根本 清貴(筑波大学医学医療系 医療情報マネジメント学・精神医学)

宮城県の妊産婦メンタルヘルスネットワーク構築事業

菊地 紗耶(東北大学大学院医学系研究科 精神神経学分野)

訪問看護を通じた周産期のメンタル支援の実際

大場 エミ(一般社団法人 親と子の支援 ゆりかご会 ゆりかご訪問看護ステーション)

精神疾患で育児中の親の配偶者と子どもの支援

横山 恵子(横浜創英大学看護学部)

◆シンポジウム 57

10月30日(金) 10:00~11:15 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

どう進める？市区町村における地域・職域連携～伴走支援で見えてきた進め方のポイント

座長：津下 一代(日本栄養大学)

渡井いずみ(浜松医科大学)

演者：昼間人口の多い都心部における取り組み

田中 政行(東京都港区みなと保健所)

地方ベッドタウン市における取り組み

尾崎伊都子(名古屋市立大学)

管轄保健所の立場から連携と支援

松本 繁(愛知県春日井保健所)

温泉観光都市における取り組み

井原 美恵(静岡県伊東市)

◆シンポジウム 58

10月30日(金) 12:40~13:55 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

子どもに届けるからだの知識：未就学児・若年層から行う生活習慣病予防の早期介入

- 座長：各務 竹康（福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座）
寺脇 博之（聖路加国際大学臨床検査科／福島県立医科大学先端地域生活習慣病治療講座）
- 演者：保護者の健康意識向上をも志向する「ボトムアップ型健康啓発活動」
磯山 優（帝京大学経済学部経営学科）
大学におけるウェルネスと生活習慣病の実態
山本眞由美（岐阜大学保健管理センター）
小学生を対象にした健康啓発授業と「ビオトープ」
嘉村 正徳（嘉村医院）
未就学児～小学校低学年を対象にした「からだフェスティバル」
中村めぐみ（聖路加国際大学国際・地域連携部）

◆シンポジウム 59

10月30日(金) 8:30~9:45 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

自治体の身体活動・運動促進：最新エビデンスと実装の実際

- 座長：菊池 宏幸（東京医科大学 公衆衛生学分野）
菊池可南子（慶應義塾大学大学院健康マネジメント研究科）
- 演者：ソーシャルマーケティングを用いた普及事業（身体活動普及ガイド／雲南市の事例より）
鎌田 真光（東京大学大学院医学系研究科 公共健康医学専攻 健康教育・社会学分野）
システムズアプローチの視点（神奈川県藤沢市の事例を踏まえて）
小熊 祐子（慶應義塾大学スポーツ医学研究センター・大学院健康マネジメント研究科）
健康日本21（第三次）におけるロジックモデルとその活用
井上 茂（東京医科大学 公衆衛生学分野）
運動習慣化に向けて自治体に期待される役割とスポーツ庁の支援策
中村 宇一（スポーツ庁 健康スポーツ課）

◆シンポジウム 60

10月30日(金) 10:00~11:15 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

賛否の分かれる公衆衛生対策に関するディベート

- 座長：尾崎 米厚（鳥取大学医学部 医学科 社会医学講座 環境予防医学分野）
- 演者：プレコンセプションケア健診の行政支援の是非
高橋美保子（埼玉医科大学医学部社会医学）
プレコンセプションケア健診の行政支援の是非
郡山 千早（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 疫学・予防医学）
未成年（16歳未満）のSNS使用制限の是非
横川 博英（順天堂大学医学部総合診療科学講座）
未成年（16歳未満）のSNS使用制限の是非
弓屋 結（広島大学 大学院医系科学研究科公衆衛生学）

◆シンポジウム 61

10月30日(金) 12:45～14:00 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

自治体公衆衛生医師確保につなげる！理想のインターンシップ！

座長：名越 究（島根大学）

町田 宗仁（国立保健医療科学院）

演者：自治体の公衆衛生医師確保対策の現在

平本 恵子（広島県西部厚生環境事務所・保健所）

若手医師が自治体採用に至るまでの道のりについて

菊地 省大（東京都保健医療局感染症対策部）

インターンシップ成功の秘訣とは

牛山佳菜代（目白大学）

将来的な自治体公衆衛生医師需給見通しと対策の必要性

河野 洋平（厚生労働省健康・生活衛生局健康課地域保健室）

◆シンポジウム 62

10月30日(金) 8:30～9:45 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

注目すべき睡眠障害 睡眠呼吸障害、不眠、COMISA

座長：和田 裕雄（順天堂大学医学部 公衆衛生学講座）

有馬 久富（福岡大学医学部 衛生・公衆衛生学講座）

演者：小児の睡眠問題と持続的注意

朱 沁曄（順天堂大学医学部 公衆衛生学講座）

医学部学生 SAS の有病率

西島 嗣生（岩手医科大学医学部 睡眠医療学科）

子どもの精神状態は睡眠による？

松岡美智子（久留米大学医学部 神経精神医学講座）

COMISA って何？

吉村 力（福岡大学病院 睡眠センター）

◆シンポジウム 63

10月30日(金) 10:00～11:15 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

戦略的な思考に基づく栄養政策・施策の展開 ～行政管理栄養士の人材育成の視点から～

座長：由田 克士（大阪公立大学大学院 生活科学研究科 食栄養学分野 公衆栄養学）

諸岡 歩（兵庫県保健医療部健康増進課）

演者：行政管理栄養士に求める公衆衛生戦略～地域活動と地域づくりの視点から～

藤内 修二（大分県東部保健所）

政策形成・企画発想能力を高め、栄養政策・施策を戦略的に展開する

久保 彰子（日本栄養大学 栄養学部）

公衆衛生専門管理栄養士を実践現場にいかす ～都道府県の立場から～

木原 葵（兵庫県伊丹健康福祉事務所）

公衆衛生専門管理栄養士を実践現場にいかす ～市町村の立場から～

市川 祐子（神奈川県伊勢原市健康づくり課）

◆シンポジウム 64

10月30日(金) 12:45~14:00 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

地理情報科学で拓く行政保健師の実践と学術

座長：堀池 諒(奈良県立医科大学 公衆衛生看護学領域)

演者：「地図が変える保健師活動」—QGISを用いた地域課題の可視化と実践(避難所配置から健康資源到達圏解析へ)—

長井 菜月(京都市伏見区役所保健福祉センター)

データで支える地域保健～全国から市町村単位まで QGIS で見える化～

佐藤めぐみ(現所属：大阪府和泉保健所)

マクロな指標とミクロな地域支援を「つなぐ」～GISを用いた脆弱性視覚化から考える～

星 翼(埼玉県南部保健所)

◆シンポジウム 65

10月30日(金) 14:15~15:30 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

PHRを社会実装する：産官学民連携と現場の協働

座長：石見 拓(京都大学大学院予防医療学)

阿部 達也(株式会社ヘルステック研究所)

演者：地域におけるPHR-EHR連携基盤づくり：産官学民ですすめるPHRハブの社会実装

小松 雅代(京都大学大学院医学研究科予防医療学)

健康日記アプリ・リサーチマネージャーを活用したPHRの有効性の検証：ランダム化比較試験

高橋 由光(京都大学大学院医学研究科パブリックヘルス実装学)

PHRによる地域医療連携での活用事例で紹介：ヘルスケアパスポート plus

宮内 康裕(TIS株式会社)

生活習慣病・循環器病管理PHRアプリの開発と社会実装：三重における取組を全国へ

伊藤 弘将(三重大学大学院医学系研究科循環器・腎臓内科学)

◆シンポジウム 66

10月30日(金) 8:30~9:45 第10会場(京王プラザホテル 43F ムーンライト)

大規模イベントにおける公衆衛生対応の実践と体制強化—レガシーの継承と発展

座長：富尾 淳(国立保健医療科学院)

齋藤 智也(国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所)

演者：大規模イベントにおける公衆衛生対応

富尾 淳(国立保健医療科学院)

大阪・関西万博感染症情報解析センターの取り組みとその振り返り

福住 宗久(大阪健康安全基盤研究所)

愛知・名古屋アジア・アジアパラ競技大会における自治体の取り組み

小嶋 雅代(名古屋市健康福祉局)

大規模イベントにおけるリスクコミュニケーション

加藤 美生(国立健康危機管理研究機構国立感染症研究所)

◆シンポジウム 67

10月30日(金) 10:00~11:15 第10会場(京王プラザホテル 43F ムーンライト)

Sustainable mining (持続可能な鉱業) に関する教訓と国際動向

座長: 山本 秀樹 (帝京大学 薬学部 環境衛生学研究室)

津田 洋子 (帝京大学 大学院公衆衛生学研究科)

演者: 足尾銅山の歴史と健康被害と対策の歴史

津田 洋子 (帝京大学 大学院公衆衛生学研究科)

Zambia 共和国コッパーベルト州における公衆衛生上の課題とコッパーベルト大学における Sustainable mining に関する取り組み

立山由紀子 (帝京大学 薬学部 環境衛生学研究室)

三井三池炭鉱の粉じん爆発やじん肺などの健康被害から学ぶ教訓と大牟田市の取り組みについて

浅山 敬 (帝京大学 医学部 衛生学公衆衛生学講座)

モンゴルにおける鉱山開発と鉱山労働者の健康保護のための国際的連携

石丸 知弘 (産業医科大学 医学部医学概論研究室)

◆シンポジウム 68

10月30日(金) 13:00~14:15 第10会場(京王プラザホテル 43F ムーンライト)

私たちの EBPM は実装可能かー データに現れない集団の健康を考える

座長: 西岡 大輔 (神戸大学大学院医学系研究科 社会健康公正学部門)

上野 恵子 (金沢大学)

演者: 公衆衛生学と社会福祉学の接点を探求する

西岡 大輔 (神戸大学)

生活困窮者における食事の質に関する定量的研究: 公衆衛生の立場から

田中 琴音 (神奈川県立保健福祉大学)

生活保護制度の狭間と支援の工夫: 福祉事務所行政の立場から

樋口 明夫 (所属なし (元自治体福祉事務所長))

生活困窮者の健康・生活を捉える質的研究と混合研究: 社会福祉の立場から

林 慎吾 (東北大学)

◆シンポジウム 69

10月30日(金) 14:30~15:45 第10会場(京王プラザホテル 43F ムーンライト)

ソーシャルワークと連携せずに健康づくりができるか? 保健と福祉の協働に向けて

座長: 西岡 大輔 (神戸大学大学院医学系研究科 社会健康公正学部門/日本医療ソーシャルワーカー協会)

演者: 周産期における親子の健康な暮らしと支援の連続性を保障する取り組み: 病院起点のソーシャルワーク実践

佐藤 杏 (東京大学医学部附属病院/日本医療ソーシャルワーカー協会)

こどもたちのチャレンジが地域を変える: 診療所起点のソーシャルワーク実践

戸泉めぐみ (オレンジホームケアクリニック SW/Orange Kids' Care Lab. 代表理事)

福祉事務所職員の理解を更新する: 行政起点のソーシャルワーク実践

上田 勲 (豊中市保健所)

◆シンポジウム 70

10月31日(土) 8:30~9:45 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

デジタルバイオマーカーの公衆衛生的意義

座長：高田 礼子(聖マリアンナ医科大学 予防医学教室)

杉山 雄大(筑波大学 ヘルスサービス開発研究センター)

演者：ウェアラブルデバイスを用いた住民の血圧・循環器リスク管理の可能性

矢野裕一朗(順天堂大学医学部 総合診療科学講座)

腕時計型ウェアラブルデバイスを用いた孤独感、倦怠感、抑うつ、生活の質(QOL)などの推定

泉 啓介(株式会社テックドクター、慶應義塾大学医学部リウマチ・膠原病内科、東京医療センター)

ウェアラブルデバイス・デジタルバイオマーカーの産業保健での活用可能性

大神 明(産業医科大学産業生態科学研究所 作業関連疾患予防学)

ウェアラブルデバイス・デジタルバイオマーカーに関する法政策

藤田 卓仙(東京財団)

◆シンポジウム 71

10月31日(土) 10:00~11:15 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

公衆衛生領域における施策・事業の社会的インパクト評価の普及に向けて

座長：近藤 克則(千葉大学 予防医学センター / 一般財団法人 医療経済研究・社会保険福祉協会 医療経済研究機構)

演者：PFS/SIB における成果評価の取り組み事例

高木 大資(京都大学大学院医学研究科社会的インパクト評価学講座)

施策・事業効果の貨幣価値換算

河口謙二郎(東京女子医科大学医学部医学科)

“支援”の現場との協働による社会的インパクト評価設計の試み

川内はるな(京都大学大学院医学研究科社会的インパクト評価学講座)

公衆衛生領域における社会的インパクト評価ガイドラインの提案

石村 奈々(京都大学大学院医学研究科社会的インパクト評価学講座)

◆シンポジウム 72

10月31日(土) 12:40~13:55 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

健康を入口としない多様な社会資源との接続による新たな地域支援事業のアプローチ

座長：藤原 佳典(東京都健康長寿医療センター研究所)

澤岡 詩野(東海大学健康学部)

演者：地域支援事業における多様な社会資源の活用の可能性

植田 拓也(東京都健康長寿医療センター研究所)

空き家活用による多様な居場所の創出：建築学的視点から

三浦 研(京都大学大学院工学系研究科建築学専攻)

まちづくり・地域活性化施策を通じたコミュニティ形成・Well-being への波及：京都市の事例から

葛城 優美(京都市総合企画局人口戦略室)

文化財を活かした地域づくりと多様な関わりの創出：都留市の取組から

知念 浩生(都留市教育委員会生涯学習課)

◆シンポジウム 73

10月31日(土) 14:10~15:25 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

大学・企業・地域が共創する未来型住民コホートの構築に向けて：山梨 COI-NEXT

- 座長：後藤 温（横浜市立大学大学院医学研究科公衆衛生学教室）
大岡 忠生（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
- 演者：世界最大規模の住民オミックス IoT コホート・バイオバンクの構築に向けた取り組み
大岡 忠生（山梨大学大学院総合研究部医学域社会医学講座）
自治体データ統合による健康介入の医療経済評価とデジタルツイン構築の展望
福田 治久（九州大学大学院医学研究院医療経営・管理学講座）
低侵襲代謝センサーと IoT デバイスによるリアルタイム代謝モニタリングの実現に向けて
鶴岡 典子（東北大学大学院工学研究科・工学部ロボティクス専攻）
居住環境のオミックス統合解析に基づく生活環境病の機序解明と健康まちづくりへの応用
海塩 渉（東京科学大学 環境・社会理工学院建築学系）

◆シンポジウム 74

10月31日(土) 8:30~9:45 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

グローバルな健康課題に貢献する公衆衛生

- 座長：大澤 絵里（国立保健医療科学院）
宮野 真輔（順天堂大学）
- 演者：Essential Public Health Functions の世界的議論とグローバルヘルスに貢献しうる公衆衛生看護
五十嵐久美子（国立保健医療科学院）
日本の地域における公衆衛生の実践からグローバルヘルスへの示唆
四方 啓裕（福井県若狭健康福祉センター）
低所得国におけるコミュニティ・ヘルスを担う人材とその実践に関する制度的分析
虎頭 恭子（国立健康危機管理研究機構国際協力局）
UHC 達成に貢献する看護人材の役割～State of the World's Nursing 2025 および Global Strategic Directions for Nursing and Midwifery 2030 から
穴見（秋元）翠（World Health Organization Regional Office for the Western Pacific）

◆シンポジウム 75

10月31日(土) 10:00~11:15 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

国の健康医療政策における行政担当者と研究者の協働を考える

- 座長：東 尚弘（東京大学医学系研究科公衆衛生学分野）
後藤 温（横浜市立大学医学部医学科 公衆衛生学教室）
- 演者：座長趣旨説明— 行政と研究の協働における課題
東 尚弘（東京大学医学系研究科公衆衛生学分野）
子ども家庭庁と研究者の連携体制の今
竹原 健二（国立成育医療研究センター政策科学研究部）
厚生労働省における研究者との連携方法
荒木 裕人（厚生労働省大臣官房厚生科学課）
厚生労働省における研究者との連携事例
鶴田 真也（厚生労働省健康・生活衛生局がん・疾病対策課）

◆シンポジウム 76

10月31日(土) 12:40~13:55 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築に向けて～自殺対策の実践と連携から

座長：伊東千絵子（奈良県精神保健福祉センター）

辻本 哲士（滋賀県立精神保健福祉センター）

演者：「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」構築における現状と課題～施策横断的な視点から

野口 正行（岡山県精神保健福祉センター）

精神障害にも対応した地域包括ケアシステム構築への展望-地域における包括的な自殺対策の実践から-

遠藤 仁（岩手県精神保健福祉センター）

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステム」を支える自殺未遂者支援という地域支援インフラ

西畑 陽介（堺市こころの健康センター）

◆シンポジウム 77

10月31日(土) 14:10~15:25 第3会場(京王プラザホテル 5F コンコードA)

健康を支える身近な生活環境づくり

座長：牛山 明（国立保健医療科学院 生活環境研究部）

森田 明美（鳥取大学医学部 社会医学講座 健康政策医学分野）

演者：居住環境と健康—自然素材による健康増進に関する実験と疫学研究—

東 賢一（近畿大学大学院 医学研究科 予防医学・行動科学）

被服環境と健康：身近な生活環境としての衣服とその調節機能

深沢太香子（京都教育大学 教育学部 家政科）

気候変動と生活環境—子どもや高齢者の生活習慣と健康への影響—

増本 年男（鳥取大学医学部 社会医学講座 健康政策医学分野）

◆シンポジウム 78

10月31日(土) 8:30~9:45 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

地域保健における“伝える力”の進化：科学的知見を社会的合意につなげる実践知

座長：上原 里程（国立保健医療科学院）

清野 薫子（国立保健医療科学院）

演者：健康情報はいかにして住民の手に届く～「しまね MAME インフォ」を通して明らかになったこと

名越 究（鳥根大学医学部環境保健医学講座）

AI時代にこそ求められる伝える技術：基礎からナッジ理論の応用まで

福田 吉治（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）

「伝える」を保健活動として実装する—対人支援における実践

奥田 博子（国立保健医療科学院）

◆シンポジウム 79

10月31日(土) 12:10~13:25 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

幼少期から青年期までを繋ぐ Well-being：データと対話で支える成長

座長：宮崎 智之（横浜市立大学）

玉腰 暁子（北海道大学）

演者：就学前から切れ目なく子どもの発達とウェルビーイングを見守り・支えるデータ技術開発

千住 淳（浜松医科大学）

GIGA 端末を用いた小中学生のこころの状態把握とそれに基づく学校支援

石井 美緒（横浜市立大学）

特徴の異なる地域の高校生のライフデザイン

木村 尚史（国立環境研究所）

◆シンポジウム 80

10月31日(土) 8:30~9:45 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

地域におけるオーラルフレイル対策の戦略的位置づけ

- 座長：福田 英輝(国立保健医療科学院)
大浦 智子(国立研究開発法人国立長寿医療研究センター)
演者：歯科口腔保健の推進におけるオーラルフレイル対策の位置づけ
小嶺 祐子(厚生労働省医政局歯科保健課)
オーラルフレイル対策を推進する学術的根拠とその実践例
竹内 研時(東北大学大学院歯学研究科)
地域包括ケアにおけるオーラルフレイル対策の意義と位置づけ
渡辺修一郎(桜美林大学健康福祉学群)
高齢者対策の中で展開するオーラルフレイル対策の実践
清水 裕子(埼玉県志木市子ども・健康部)

◆シンポジウム 81

10月31日(土) 10:00~11:15 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

持続可能な食環境とまちづくり：エビデンスと地域実践からの示唆

- 座長：岡田 知佳(医薬基盤・健康・栄養研究所 栄養疫学・政策研究センター 栄養疫学研究室)
伊東 秀之(医薬基盤・健康・栄養研究所 産官学連携研究センター)
演者：健康的な食環境づくりに向けた食情報活用の展開
岡田 知佳(医薬基盤・健康・栄養研究所 栄養疫学・政策研究センター 栄養疫学研究室)
データヘルスを活用した持続可能な食環境の構築
古井 祐司(東京大学未来ビジョン研究センター/自治医科大学)
食環境づくりに向けた産官学連携・食環境プロジェクトの取り組み-
北岡かおり(医薬基盤・健康・栄養研究所 産官学連携研究センター 研究連携推進室)
ひょうご健康的な食環境づくりプロジェクト(BE WELL)の推進
諸岡 歩(兵庫県保健医療部健康増進課)

◆シンポジウム 82

10月31日(土) 12:40~13:55 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

生涯健康支援 10 を用いた CKM 症候群ステージ別包括的な予防方法の開発

- 座長：加藤 有花(国立循環器病研究センター)
小久保喜弘(国立循環器病研究センター)
演者：生涯健康支援 10 を用いた CKM 症候群ステージ別包括的な予防方法：吹田研究
加藤 有花(国立循環器病研究センター)
心不全重症化予防事業の富良野での取り組み
森 雄一郎(京都大学大学院医学研究科 社会健康医学系専攻 健康増進・行動学分野)
心不全重症化予防事業の港区での取り組み
加藤 祐子(心臓血管研究所附属病院循環器内科心不全)
心不全重症化予防事業の宮古島での取り組み
池原 賢代(琉球大学医学部保健学科疫学・行動科学研究室)

◆シンポジウム 83

10月31日(土) 14:10~15:25 第5会場(京王プラザホテル 4F 錦)

公的統計データの公衆衛生・疫学研究への活用：+αの分析を目指して

座長：小林 廉毅（東京大学）

演者：国勢調査と人口動態統計のデータリンケージ分析

田中 宏和（国立がん研究センター がん対策研究所）

地理的な社会経済状況と死亡率・健康寿命・がん検診の分析

片岡 葵（神戸大学大学院医学系研究科）

がん死亡率の将来予測と介入効果のシミュレーション

福井 敬祐（関西大学社会安全学部）

看護配置情報と DPC データ分析による病院看護師の人員不足と患者アウトカムの分析

森岡 典子（国立保健医療科学院疫学・統計研究部）

◆シンポジウム 84

10月31日(土) 8:30~9:45 第6会場(京王プラザホテル 4F 扇)

助けを求められない人への支援：8050 問題を考える

座長：長谷部雅美（聖学院大学 心理福祉学部）

中島 修（文京学院大学 人間学部人間福祉学科）

演者：地域高齢者調査から捉える 8050 問題の実態と援助要請

山崎 幸子（文京学院大学 人間学部心理学科）

中高年のひきこもり支援の現状と課題について

阿部 達明（NPO 法人楽の会リーラ）

8050 問題における居宅介護支援員の役割と期待とミスマッチ

石井 正宏（NPO 法人パノラマ）

助けを求められない人と社会をつなぐには

村山 陽（東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加とヘルシーエイジング研究チーム）

◆シンポジウム 85

10月31日(土) 10:00~11:15 第6会場(京王プラザホテル 4F 扇)

人獣共通・輸入感染症 2026【学会モニタリングレポート委員会感染症等班報告 R8】

座長：緒方 剛（筑波大学医学群）

伊東 則彦（北海道名寄保健所（兼）紋別保健所）

演者：輸入感染症 TB2026 他（外国出生結核患者の昨年の動向）等

大角 晃弘（Research Institute of Tuberculosis (RIT), Japan Anti-Tuberculosis Association (JATA)）

エキノコックス 2026 他

孝口 裕一（北海道立衛生研究所感染症部医動物 G）

エゾウイルス 2026 他

松野 啓太（北海道大学人獣共通感染症国際共同研究所）

STD 他 2026（STD；人獣共通感染症、輸入感染症の視点を踏まえて）等

城所 敏英（日本公衆衛生学会モニタリングレポート委員会感染症等班員）

◆シンポジウム 86

10月31日(土) 12:40~13:55 第6会場(京王プラザホテル 4F 副)

デジタル社会における親子のスマホ・ネット依存予防

- 座長：瀬在 泉（防衛医科大学校医学教育部看護学科）
山田 正明（富山大学医学部 疫学健康政策学講座）
演者：ネット依存は脳に害？（仮）
山田 正明（富山大学医学部 疫学健康政策学講座）
保護者のネット依存と子どもの発育・発達との関連（仮）
榊原 文（島根大学医学部看護学科 地域・老年看護学講座）
海外の動向と日本の実情（仮）
磯村 毅（予防医療研究所 スマホ依存防止学会代表）
就学前児の親の意識と予防教育の実践（仮）
富岡ひとみ（NPO かけはし スマホ依存防止学会上席アドバイザー）

◆シンポジウム 87

10月31日(土) 14:10~15:25 第6会場(京王プラザホテル 4F 副)

高齢者介護の質向上に向けた取り組み：制度、データ利活用、人材育成・教育の視点より

- 座長：中山 健夫（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野）
當山まゆみ（京都大学大学院医学研究科社会健康医学系専攻健康情報学分野）
演者：人材確保に関連する医療・介護保険制度の動向
次橋 幸男（奈良県立医科大学公衆衛生学講座）
介護の質と科学的介護情報システム（LIFE）
大浦 智子（国立長寿医療研究センター 老年学・社会科学研究センター 科学的介護推進チーム）
高齢者介護の質向上に向けた PDCA サイクルの実装支援
田中 誠也（国立長寿医療研究センター 先端医療開発推進センター）
高齢者介護施設職員を対象としたリスクマネジメント教育
有久 勝彦（森ノ宮医療大学 総合リハビリテーション学部）

◆シンポジウム 88

10月31日(土) 8:30~9:45 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

政策評価の実装に向けた公衆衛生人材育成：ロジックモデルワークショップの方法と普及

- 座長：芳我ちより（香川大学医学部看護学科 地域看護学）
埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野）
演者：ロジックモデルを用いた政策評価実装ワークショップの設計
埴岡 健一（国際医療福祉大学大学院 医療福祉ジャーナリズム分野）
課題解決型人材育成とワークショップの教育効果（参加者アンケート分析より）
芳我ちより（香川大学医学部看護学科 地域看護学）
自治体の在宅医療・介護連携推進に向けたロジックモデルワークショップの実践と課題
松本 佳子（医療経済研究機構）

◆シンポジウム 89

10月31日(土) 10:00~11:15 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

原子力災害時の公衆衛生と産業保健の接点～「支援する被災者」を支える新たな体制構築

座長：立石清一郎（産業医科大学 産業生態科学研究所 災害産業保健センター）
金成由美子（福島県県南保健所）

演者：福島原子力発電所事故発災後における保健所の対応について

笹原 賢司（福島県会津・南会津保健所）

公と私のはざま-支援者自身が被災者

各務 竹康（福島県立医科大学 医学部 衛生学・予防医学講座）

原子力災害における産業保健支援体制について

立石清一郎（産業医科大学 産業生態科学研究所 災害産業保健センター）

◆シンポジウム 90

10月31日(土) 12:55~14:10 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

専攻医経験者有志が企画！社会医学系専門医研修から学ぶキャリア形成と人生価値

座長：横山 勝教（香川県中讃保健所）

杉山 雄大（国立健康危機管理研究機構システム基盤整備局医療DX部）

演者：産業保健のプロフェッショナルを目指して：専攻医～社会医学系専門医取得を通して学んだこと

三宅 芙由（リコーククリエイティブサービス株式会社 ファシリティサービスセンター健康支援室）

専攻医（行政）で学んだ知識と経験を活かした社会医学系専門医のキャリア形成とは

城間 紀之（広島市健康福祉局保健部健康推進課）

社会医学系専門医制度の価値を現場で育てる一産業分野の指導医としての実践と期待—

真鍋 憲幸（三菱ケミカル株式会社 人事本部全社統括産業医）

つながりの力を活かして～産学官医連携で育てる社会医学系専門医制度の価値

吉田 穂波（神奈川県立保健福祉大学大学院 ヘルスイノベーション研究科）

◆シンポジウム 91

10月31日(土) 14:25~15:40 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

社会医学・公衆衛生学への目覚め：異なる道、一つの志

座長：和田 裕雄（社会医学系専門医協会・順天堂大学大学院医学研究科）

演者：When Clinicians Turn Toward Social Medicine and Public Health

Malcolm V. Brock（Johns Hopkins University and Bloomberg School of Public Health）

日本の臨床医の場合（仮題）

宇野 俊介（American College of Physicians 日本支部・慶應義塾大学）

医学教育の観点から（仮題）

大久保由美子（日本医学教育学会・帝京大学）

行政が期待すること

松本 晴樹（文部科学省）

特別発言：今中 雄一（社会医学系専門医協会・京都大学）

◆シンポジウム 92

10月31日(土) 8:30~9:45 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

子育て世代・高齢者の支援を受け入れる力、受援力：その特徴と向上のためのアプローチ

座長：尾島 俊之(浜松医科大学)

木村美也子(昭和女子大学)

演者：子育て世代、高齢者の受援力の特徴とは？

井手 一茂(千葉大学)

子育て世代、高齢者の受援力—地域による違いの検討—

香田 将英(東北大学)

被災と受援力—子育て世代、高齢者に着目して—

尾島 俊之(浜松医科大学)

受援力を高めるために求められるアプローチとは？

木村美也子(昭和女子大学)

◆シンポジウム 93

10月31日(土) 10:00~11:15 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

森林浴を活用した健康増進のエビデンスと実践

座長：井上 茂(東京医科大学公衆衛生学分野)

中田 由夫(筑波大学体育系)

演者：森林浴の健康効果に関するエビデンス

落合 博子(国際医療福祉大学成田病院形成外科)

職場の健康づくりにおける森林浴の活用

木村 理砂(株式会社 Momo ウェルビーイング、北里大学大学院産業精神保健学)

地域の健康づくりにおける森林浴の活用

河西 恒(しなの市 Woods-LifeCommunity 事務局)

森林浴を活かした離島医療の実践と死生観—屋久島にて

杉下 智彦(屋久島尾之間診療所院長、東京女子医科大学公衆衛生講座グローバルヘルス部門)

◆シンポジウム 94

10月31日(土) 12:45~14:00 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

医療安全対策における行政の役割 ～保健所に期待されるもの～

座長：稲葉 静代(岐阜県可茂保健所)

演者：患者安全における保健所行政の重要性(仮)

長尾 能雅(名古屋大学医学部附属病院 患者安全推進部)

医療法での行政処分と保健所指導(神戸市の事例)

岡島 花江(神戸市健康局保健所)

医療安全に対する保健所の取り組み

中村 清司(松山市役所 健康医療部)

◆シンポジウム 95

10月31日(土) 14:15~15:30 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

パンデミック対策で壊れた見えない社会機能：まだ道半ばの教訓と次への備え

座長：齋藤 智也(国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター)
関 なおみ(国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター)

演者：高齢者施設から見たパンデミック

鈴木 大悟(とある株式会社)

制度の外側で何が起きたかー在留外国人支援の現場から見た健康危機対応

高田友佳子(みんなの外国人ネットワーク/CINGA)

パンデミックを越えて 地域からみた感染対策の限界と課題

高山 義浩(沖縄県立中部病院)

パンデミック期におけるメディアの情報発信の取り組みと教訓

前村 聡(日本経済新聞社)

◆シンポジウム 96

10月31日(土) 14:25~15:40 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

保健行政が既存事業を活かし進めるプレコンセプションケア
～母子・思春期保健、感染症対策等を活用した事例～

座長：中澤 智(神奈川県横浜市 泉区こども家庭支援課)

児玉 知子(国立保健医療科学院)

演者：保健行政が地域と協働し進めるプレコンセプションケア

渡會 睦子(東京医療保健大学 医療保健学部 地域健康づくり研究・教育センター・一般社団法人
住民とともに活動する保健師の会)

乳幼児期から行うプレコンセプションケアと性教育

佐藤沙也果(仙台市泉区)

地域住民と共にディスカッションしながら取り組むプレコンセプションケア

柴田 みえ(横浜市泉区こども家庭支援課子育て支援担当)

産婦人科医から見たプレコンセプションケアと性教育

本多つよし(福島県立医科大学 地域産婦人科支援講座)

◆ランチョンシンポジウム 1

10月29日(木) 11:45~13:00 第10会場(京王プラザホテル 43F スターライト)

健康日本21(第三次)のソーシャルキャピタルを問い直す-エビデンス・実装・政策-

座長：近藤 克則(千葉大学予防医学センター健康まちづくり共同研究部門)

藤川 愛(高松市保健所)

演者：ソーシャルキャピタルは健康指標となり得るのかー妥当性とエビデンスー

中込 敦士(千葉大学予防医学センター)

地域資源を活用したソーシャルキャピタルの醸成は可能かー実践事例と量的検証ー

飯塚 玄明(千葉大学予防医学センター)

防災とソーシャルキャピタルー災害時の機能と平時からの備えー

臼田裕一郎(国立研究開発法人防災科学技術研究所)

アクションプランと地域実装ーモニタリングとステークホルダーの役割ー

永田 英恵(京都大学大学院医学研究科)

指定討論者：尾島 俊之(浜松医科大学健康社会医学講座)

◆ランチョンシンポジウム 2

10月30日(金) 11:35~12:50 第10会場(京王プラザホテル 43F ムーンライト)

介護版の標準化レセプト出現比と将来推計から考えるサービス提供体制の現状と未来

座長：陣内 裕成（日本医科大学）
長嶺由衣子（厚生労働省医療情報担当参事官室）
演者：公開された介護版 SCR 等の概説
陣内 裕成（日本医科大学）
地域差と関連する介護サービスのアウトカム
植嶋 大晃（関西医科大学）
サービス提供の地域差に影響する地理要因
中谷 友樹（東北大学）
地域特性に合わせた提供体制の計画事例の紹介
高嶺 公子（沖縄県地域包括ケア推進課）

◆ランチョンシンポジウム 3

10月31日(土) 11:35~12:50 第9会場(京王プラザホテル 42F 高尾)

認知症基本法時代の共生社会をどう実現するか：エビデンスと実践の統合

座長：小野 玲（国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部）
岡村 毅（東京都健康長寿医療センター）
演者：認知症診断後の重度化プロセス：ナチュラルヒストリーと予後
小野 玲（国立長寿医療研究センター 老年社会科学研究部）
認知症に対するスティグマと共生社会の障壁
野口 泰司（浜松医科大学 健康社会医学講座）
当事者の声を踏まえつつ、エビデンスを地域実践につなぐ
進藤 由美（東京都健康長寿医療センター研究所 健康長寿医療研修センター）

◆スポンサードシンポジウム 1

10月30日(金) 10:00~11:15 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

「健康日本 21」の推進を目指した連携指標の策定

座長：岡山 明（生活習慣病予防研究センター）
岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学）
演者：「健康日本 21 推進全国連絡協議会」介入団体における健康日本 21（第三次）の推進の現状
岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学）
運動・身体活動の連携指標の策定
小熊 祐子（日本体力医学会）
禁煙・受動喫煙防止の推進に関する連携指標の策定
齋藤 麗子（日本禁煙推進医師歯科連盟）
栄養・食生活改善に関する連携指標の策定
田中久美子（日本食生活協会）
共催：健康日本 21 推進全国連絡協議会

◆スポンサードシンポジウム 2

10月30日(金) 14:15~15:30 第8会場(京王プラザホテル 42F 富士)

ウェルビーイングのツボ ～伝統医療で公衆衛生学をもう一歩前へ！～

座長：小野 直哉（（公財）未来工学研究所）
友岡 清秀（順天堂大学医学部衛生学・公衆衛生学講座）
演者：趣旨説明
友岡 清秀
ウェルビーイングと伝統医学
前野 隆司（武蔵野大学 ウェルビーイング学部 学部長・教授）
養生とウェルビーイング
伊藤 和憲（明治国際医療大学鍼灸学部 学部長・教授）
災害鍼灸と Well-being：鍼灸による被災地（被災者・支援者）支援
小野 直哉（（公財）未来工学研究所 特別研究員）
女性の健康における東洋医学とウェルビーイング
謝敷 裕美（順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 博士課程）
総合討論
共催：セイリン株式会社

◆オンデマンドシンポジウム 1

公的データベース利活用の現状と課題

座長：今村 知明（奈良県立医科大学）
小西 孝明（国立がん研究センター）
演者：匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）第三者提供の現状と今後（仮）
吉村 季恵（厚生労働省 保険局医療介護連携政策課 保険データ企画室）
匿名医療保険等関連情報データベース（NDB）を用いた臨床研究（仮）
西岡 祐一（奈良県立医科大学 公衆衛生学講座）
大規模レセプトデータを用いた臨床疫学研究の実例（仮）
岡田 啓（東京大学 糖尿病・生活習慣病予防講座）
大規模レセプトデータを用いた臨床疫学研究の実例（仮）
杉山 雄大（国立健康危機管理研究機構）

◆オンデマンドシンポジウム 2

住まいと健康の疫学調査、その現在地と未来～調査の知見から次なる展開を議論する～

座長：高杉 友（近畿大学 理工学部 社会環境工学科）
鈴木 規道（千葉大学予防医学センター）
演者：住宅の断熱性能向上による高血圧・循環器疾患予防の波及効果 ―スマートウェルネス住宅全国調査から得られた知見―
海塩 渉（東京科学大学）
住環境の空間特性および間取りとウェルビーイングとの関連 ―健康と住まいに関する全国調査（J-hohec）および一般調査―
嶋谷 圭一（千葉大学予防医学センター）
住環境疫学における産業情報を活用した研究基盤の構築と課題 ―健康と住まいに関する全国調査（J-hohec）―
岩山遼太郎（積水ハウス株式会社）
妊娠期から幼児期の住まいの環境暴露と母児の健康 ―胎児期に始まる子どもの健康と発達に関する調査 住まいの環境調査―
鈴木 規道（千葉大学予防医学センター）
共催：セイリン株式会社

◆オンデマンドシンポジウム 3

出生コホート連携が拓く公衆衛生の新展開

座長：田中 笑子（武蔵野大学 看護学部）
森崎 菜穂（国立成育医療研究センター 女性の健康政策研究部）
演者：出生コホート連携の現状と公衆衛生への展開、社会実装
目時 弘仁（東北医科薬科大学 医学部）
統合メタ解析に基づく出生コホート研究の一般化可能性について
岩田 啓芳（北海道大学 環境健康科学研究教育センター）
100 万人ゲノム連携と出生コホートの役割と可能性について
松田 浩一（バイオバンク・ジャパン、東京大学大学院新領域創成科学研究科）
紛争・災害を含む多様な環境における出生コホート研究の可能性と課題
藤屋 リカ（慶應義塾大学 看護医療学部）

◆オンデマンドシンポジウム 4

0 次予防の健幸まちづくりの新フェーズー健幸モビリティハブとまちづくり政策の方向性

座長：大久保一郎（神奈川県茅ヶ崎市保健所）
久野 譜也（筑波大学大学院）
演者：外出・交流を阻む「公共交通」の衰退と後期高齢者高止まり時代に求められる対策、そして健康影響のエビデンス
谷口 綾子（筑波大学システム情報系）
モビリティハブの国内外の潮流と健幸づくりとモビリティハブを考える研究会における中間整理から可能性を考える
安藤 章（明海大学不動産学部）
予防を包含した全世代型地域包括ケアを進める中野区が目指すスマートウェルネスシティーー都市施策と人々の健幸ー
酒井 直人（東京都中野区）
自然に健やかで幸せになれるまちづくり政策が目指すもの
田邊 解（筑波大学スマートウェルネスシティー政策開発研究センター）

◆オンデマンドシンポジウム 5

【日本ヘルスコミュニケーション学会・日本公衆衛生学会共催】 AI・SNS 時代の公衆衛生：成果を社会に届けるために私たちは何をすべきか

座長：高橋 秀人（筑波大学 医学医療系）
伊藤 ゆり（神戸大学大学院医学系研究科）
演者：インフォデミック時代の科学の「伝え方」～炎上せず・スルーされず、ちゃんと「伝わる」方法とは～
市川 衛（武蔵大学社会学部メディア社会学科）
エビデンスに基づく健康情報を届ける技術ーポッドキャストを活用した社会とのコミュニケーション
林 英恵（Down to Earth BEYOND HEALTH INSTITUTE / 慶應義塾大学グローバルリサーチインスティテュート）
「わかりやすく伝える」は設計できるか～学際的手法による手引開発と全国 23 回ワークショップから得られた知見
山田 恵子（埼玉県立大学 保健医療福祉学部）
公衆衛生の情報発信を“研究”する：ヘルスコミュニケーション学の視点から
石川ひろの（帝京大学大学院公衆衛生学研究科）
共催：日本ヘルスコミュニケーション学会

◆オンデマンドシンポジウム 6

子どもたちの人生を豊かに育むための地域連携 ～こころ・からだ・性の健康教育～

- 座長：児玉 知子（国立保健医療科学院）
渡會 睦子（東京医療保健大学 医療保健学部・一般社団法人 住民とともに活動する保健師の会）
- 演者：児童養護施設における紙芝居で伝える「生きるための心を伝える教育」の効果
會田 健司（児童養護施設 山形学園）
児童虐待防止に関連した法律の改正にともなう児童虐待防止の対策
湯川 慶子（国立保健医療科学院）
地域が連携し行う「子どもたちの人生を豊かに育む教育」
廣末 ゆか（一般社団法人 住民とともに活動する保健師の会）
嬰兒殺事例を発端にした「生きる力を育む生（性）教育」を用いた公衆衛生看護活動
西本美公子（高知県須崎市）

◆オンデマンドシンポジウム 7

高齢者就労・就労的活動を支える中間支援の実践と展望

- 座長：藤原 佳典（東京都健康長寿医療センター研究所）
村山 洋史（東京都健康長寿医療センター研究所社会参加とヘルシーエイジング研究チーム）
- 演者：東京都北区における高齢者就労支援の歩み
新井 好子（北区福祉部高齢福祉課）
東京都内 58 か所のシルバー人材センターへの活動支援
上野 芳江（公益財団法人東京しごと財団）
NPO の立場で行う高齢者の生きがい就労マッチング
遠座 俊明（特定非営利活動法人健康・生きがい就労ラボ）
社会参加消極層をターゲットにしたジョブボラの取り組み
野中久美子（東京都健康長寿医療センター研究所社会参加とヘルシーエイジング研究チーム）

◆オンデマンドシンポジウム 8

女性の Well-being 向上を阻むアンコンシャスバイアスの解消法

- 座長：大澤 絵里（国立保健医療科学院公衆衛生政策研究部）
久野 譜也（筑波大学大学院）
- 演者：自分の健幸を後回しにする子育て女性と社会が抱えるアンコンシャスバイアス
松島みどり（筑波大学人文社会系）
若年女性の世界ワーストの「痩せ」を生み続ける社会のアンコンシャスバイアスと今後目指すべき包摂的な社会
田村 好史（順天堂大学大学院医学研究科）
アンコンシャスバイアスを解消し、女性の健幸課題を向上させる MOM UP PARK と Well-being 経営支援サービスの実装
塚尾 晶子（つくばウエルネスリサーチ）
女性の健康スポーツ実施率を高めるためにスポーツ庁における多様な環境整備と第 4 期スポーツ基本計画における取組
中村 宇一（スポーツ庁健康スポーツ課）

◆オンデマンドシンポジウム 9

One Health, プラネタリーヘルスを考える—実践活動からの健康評価の検討—

座長：佐藤 祐子（オフィスゆうらし Lab.）
富崎 悦子（慶應義塾大学）
演者：ワンヘルスの実践
佐藤 祐子（オフィスゆうらし Lab.）
木育（もくいく）を活用した実践と健康
松井 勅尚（一般社団法人 KASANE）
くらしの中で実感する人と地球の健康
田中 笑子（武蔵野大学）

◆オンデマンドシンポジウム 10

学校を起点とした HPV ワクチン定期接種促進に向けた情報提供

座長：片山佳代子（群馬大学）
上田 豊（和歌山県立医科大学）
演者：官学連携健康推進事業としての子宮頸がん出前授業
川越 靖之（宮崎県立看護大学）
医学生による HPV ワクチン出張授業の取り組み
長尾 奏花（三重大学医学部医学科）
小中学校での性教育と HPV ワクチンに関する情報提供
森重 朝子（豊中市教育委員会（ボランティア））
学校から家庭につながるワクチンに関する学びと HPV ワクチン接種の検討
八木 麻未（和歌山県立医科大学）

◆オンデマンドシンポジウム 11

地域医療の継続から考える感染症健康危機への備え～診療所向け BCP の展望を踏まえて

座長：関 なおみ（国立健康危機管理研究機構 国立感染症研究所 感染症危機管理研究センター）
田辺 正樹（三重大学 感染制御・感染症危機管理学）
演者：新興感染症発生・まん延時における医療提供体制
飯田 淳義（厚生労働省 医政局 地域医療計画課 新興感染症等医療対策室）
総合病院における BCP 作成の取り組み
守山 祐樹（国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター 国際感染症センター）
新興感染症発生時に診療所機能を維持するには：日本医師会としての取り組み
平林 弘久（日本医師会 診療所における新興感染症対策研修検討会）
東京都の感染症対策における医師会の取り組み
首里 京子（東京都医師会 疾病対策担当）

◆オンデマンドシンポジウム 12

プラネタリーヘルス研究から実践への橋渡しとその課題：産官学連携による実装に向けて

座長：鹿嶋小緒里（広島大学 IDEC 国際連携機構 プラネタリーヘルス・イノベーションサイエンスセンター、
広島大学大学院環境保健科学研究室）

南谷 健太（森・濱田松本法律事務所 外国法共同事業）

演者：環境省におけるプラネタリーヘルス関連施策の現状と課題：熱中症対策を中心に

高山 研（環境省 大臣官房 環境保健部）

プラネタリーヘルスの追求を核とした経営戦略 ～人と地球の健康への願いを実現する～

富士 智之（株式会社島津製作所 経営戦略室・グローバル戦略ユニット）

東京大学 GATEWAY Campus を拠点にしたプラネタリーヘルスの産学連携の取組みについて

五十嵐圭日子（東京大学プラネタリーヘルス研究機構）

産官学民を巻き込んだプラネタリーヘルス推進活動の軌跡と課題

菅原 丈二（特定非営利活動法人 日本医療政策機構）

◆オンデマンドシンポジウム 13

来るべき地域コミュニケーション学は公衆衛生学にどのように貢献できるか？

座長：今村 晴彦（長野県立大学大学院 健康栄養科学研究科）

高梨 克也（滋賀県立大学 人間文化学部人間関係学科）

演者：伊豆市地域づくり協議会活動における公式/非公式のコミュニケーション

高梨 克也（滋賀県立大学 人間文化学部人間関係学科）

過疎山村における高齢者の買い物困難とコミュニケーションの問題：長野県天龍村での調査を通じて

丸山 真央（大阪大学 大学院人間科学研究科）

日常的な買物会話からみる過疎地域のソーシャル・キャピタル：広島県島しょ地域と長野県天龍村の事例より

酒井 晴香（広島大学 大学院人間社会科学研究科）

制度の隙間をつなぐ多機関連携の可能性と課題：岩手県北上市の重層的支援体制整備事業を例に

役重眞喜子（岩手県立大学 総合政策学部）

◆オンデマンド市民公開シンポジウム

環境化学物質および生物多様性と健康：予防と増進

座長：澤田 典絵（国立がん研究センター）

中山 祥嗣（国立環境研究所）

演者：我が国における有機フッ素化合物（PFAS）リスク評価（仮）

祖父江友孝（食品安全委員会）

有機フッ素化合物（PFAS）とがんの疫学研究（仮）

澤田 典絵（国立がん研究センター）

エクスポゾームにおける生物多様性（仮）

中山 祥嗣（国立環境研究所）

生物多様性と健康のつながり（仮）

土屋 一彬（国立環境研究所）

◆奨励賞受賞講演

10月30日(金) 14:10~15:25 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

奨励賞受賞講演

座長：中村 幸志(琉球大学大学院医学研究科 公衆衛生学・疫学講座)
演者：加速度計を用いた身体活動評価と公衆衛生への応用に関する研究
天竺 志保(京都大学大学院医学研究科／帝京大学大学院公衆衛生学研究科)
平時からの健康危機管理と多分野協働による地域保健の基盤整備
齊藤 和美(大阪市健康局 健康推進部 健康づくり課)
「今、自分にできること」を積み重ねて—公衆衛生の現場から—
寺川 由美(大阪市保健所)
COVID-19 罹患後症状がその後の心身・社会経済状況に及ぼす影響に関する研究
堀 幸(国立健康危機管理研究機構)
飲食店の受動喫煙防止対策の推進に関する研究
村木 功(筑波大学医学医療系)

◆優秀演題賞選考会

10月29日(木) 15:50~17:50 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

優秀演題賞選考会

座長：磯 博康(日本公衆衛生学会理事長)
東 尚弘(東京大学医学系研究科公衆衛生学分野)
審査員：中田 光紀(産業医科大学医学部 公衆衛生学)
齊藤 功(大分大学医学部公衆衛生・疫学講座)
井上 茂(東京医科大学公衆衛生学分野)
演者：東日本大震災被災者を対象とした被災後の心理的ストレス変化と脳卒中との関連
坪井 良樹(藤田医科大学 医療科学部 予防医科学分野)
行政保健師における職場のシビリティと暴力予防対策、メンタルヘルス、過少報告の関連
吉井 秀輝(神奈川県立保健福祉大学大学院ヘルスイノベーション研究科)
妊娠初期のビタミンAの摂取と先天性腎尿路異常の関連：エコチル調査
中村 美紀(群馬大学大学院医学系研究科公衆衛生学分野)
発災後30日目からみた住宅再建経路と社会的つながりの長期推移：RIAS 研究
坪田 恵(帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座)
Terrain Steepness and Hip Fracture Surgery Rates Across Japanese Prefectures
齋藤 治輝(福島県立医科大学医学部)
特定健康診査の検査項目の組み合わせと脳卒中・心筋梗塞発症リスク
青木 鐘子(順天堂大学)
地域における要支援母子のスクリーニングの評価—マルトリートメントの予防に向けて
中村 和恵(岡山市保健所)
日本の高齢者における無歯顎の地域格差：個人および地域的要因の役割
Aishwarya Pratap Gaikwad(東京科学大学大学院医歯学総合研究科歯科公衆衛生学分野)
膀胱癌早期診断の標準化を目指した人工知能支援システムの開発と多施設外部検証
高橋 秀和(名古屋大学大学院)
小学生の客観的な注意力およびいびきと多動・不注意との関連
植田 結人(順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座)

◆国際参加賞受賞講演

10月30日(金) 15:40~18:00 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

15:40-15:55

Address by the President of the Japanese Society of Public Health Award Ceremony

- 磯 博康 (President of the Japanese Society of Public Health)
- 谷川 武 (Chair of the 85th Annual Meeting of the Japanese Society of Public Health)
- 野田 愛 (Chair of the International Promotion Committee of the Japanese Society of Public Health)

16:00-16:30

<Session 1>

座長：橋爪 真弘
河野 文子

Auditing Age-driven Bias in Emergency Triage: An AI-Based Counterfactual Analysis

Ariel Guerra-Adames (University of Bordeaux) Panama

Long-term Injury related Health Burden After the 2018 Central Sulawesi Disaster

Madelina Ariani (広島大学大学院医系科学研究科) Indonesia

Estimating Excess Injury Burden During the Tigray Armed Conflict in Ethiopia

Bethel Fekede Menuta (広島大学大学院医系科学研究科) Ethiopia

16:30-17:10

<Session 2>

座長：福田 吉治
鈴木 有佳

Community Attitudes toward People Living with Dementia in Japan and Indonesia

Dianis Wulan Sari (Airlangga University) International

Impact of Social Capital on Dental Visits among Japanese Older Adults

Pemmika Intato (東京科学大学大学院医歯学総合研究科) Thailand

Public Assistance Program Transitions and Depressive Symptoms in Older Adults

Yilun Jiang (京都大学大学院医学研究科 社会疫学分野) China

Mental Health of Sexual & Gender Minorities in Asia, 2023-2025: A scoping review

Thi Phuong Lam Nguyen (国際医療福祉大学) Vietnam

17:10-17:50

<Session 3>

座長：金子 聡
朱 沁曄

Urban-Rural Disparities in COVID-19 Knowledge Among Schoolchildren in Goa, India.

Nalusha Quadros (東洋大学) India

Health Literacy and COVID-19 Protective Behaviour Change: A Cross-National Study

Inria Astari Zahra (鹿児島大学大学院医歯学総合研究科) Indonesia

Dietary calcium intake and cancer risk: a prospective cohort study in Viet Nam

Tien Hung Nguyen (国際医療福祉大学) Vietnam

Dietary Interventions for Glycaemic Control in T2DM: Longitudinal Meta-Analysis

Ziyoda Rakhimova (東京科学大学大学院) Uzbekistan

17:50 Closing remarks: 野田 愛

◆【対談】終わりの見えない闘い

10月31日(土) 10:00~10:20 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

【対談】終わりの見えない闘い

◆【映画上映】終わりの見えない闘い

10月31日(土) 10:20~12:00 第4会場(京王プラザホテル 5F コンコードC)

◆指導医講習会

10月29日(木) 15:50~16:50 第6会場(京王プラザホテル 4F 扇)

◆地方衛生研究所研修フォーラム

10月29日(木) 10:10~11:40 第7会場(京王プラザホテル 3F グレース)

◆総会

10月30日(金) 18:50~19:20 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

◆ハレルヤコーラス

10月30日(金) 19:30~19:50 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

◆意見交換会

10月30日(金) 19:50~20:50 第2会場(京王プラザホテル 5F コンコードB)

◆開会式

10月29日(木) 9:30~10:00 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

◆閉会式・奨励賞授与式

10月31日(土) 15:30~16:00 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

◆市民公開講座1

10月29日(木) 18:15~20:00 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

映画上映 終わりの見えない闘い

冒頭挨拶：和田 裕雄(順天堂大学大学院医学研究科公衆衛生学講座 教授)

◆市民公開講座2

10月30日(金) 17:10~18:40 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

すこやかな暮らしを支える合氣道的な生活 - 体験して学ぶ日常の氣の活用 -

座長：谷川 武(順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座)

演者：藤平 信一(心身統一合氣道会 会長)

◆市民公開講座 3

10月31日(土) 12:40～14:10 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

インド哲学から見た「いのち」

座長：友岡 清秀（順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座）
大林 基（映像ディレクター）
演者：丸井 浩（東京大学名誉教授）

◆市民公開講座 4

10月31日(土) 14:10～15:20 第1会場(京王プラザホテル 5F エミネンス)

日常生活に活かせるヒマラヤの教え

—新型コロナウイルス対策で疲弊した保健医療従事者への癒しのひと時—

座長：谷川 武（順天堂大学大学院医学研究科 公衆衛生学講座）
演者：相川 圭子（ヨグマタ）